

ヨコハマ人・まち

第28号

～まちへ人がまちをつくる～

発行：横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課 TEL045-671-2696 FAX045-663-8641
Email: tb-chiikimachika@city.yokohama.jp

【ヨコハマ人・まち 目次】

- 住民で頑張る「自立」と「共生」～地域で必要とされる連携
- 地域と交流の輪 グリーン
- まちづくり活動情報（募集案内）



■いきがづくり、仲間づくり ～自治会活動に関心を

「地域」は、「助け合い」の道を模索しています。しかし、地域に関心のない人たちは、どんどん地域活動から離れて行き、住民の関心を自治会活動にひきつけることがとても難しくなってきました。こうした中で、参加の窓口を広げて多くの住民が参加する自治会として成功している「賀寿（がす）団地自治会（世帯数374戸）」の取り組みをご紹介します。

賀寿団地は、戸塚駅から大船方面に南下した丘陵地にあり、東京ガス不動産株式会社の分譲地として1960年代に開発されました。開発当時にこの団地に入居された第一世代の多くの方々は、現在60～70歳代となり、他の地域と同様に少子高齢化が大きな問題となっています。そこで、この問題に取り組むため、賀寿団地自治会は「福祉を考慮した自治会活動」に力を入れており、現役時代には企業戦士だった経験豊富な人材が、組織オーガナイズの技術とノウハウを結集し、自治会の活動を展開しています。

自治会には4つの専門の部（総務部、健康文化部、福祉部、環境安全部）と、8つの委員会があります。各部ではそれぞれ、防犯パトロール、転倒予防の講習会や健康づくりのハイキング、パソコン教室、バス路線の検討などを行っています。多くの活動を設けるなど、一人ひとりが興味のあることを自主的に、自由に出来るように工夫をしていて、各自のアイデアを自治会の中で柔軟にいかすことが可能です。自治会の活動を通じてお互いに顔馴染みになり、世間話をしたり、誘い合って仲間作りをしたり、様々な企画を皆で運営するといった形で住民に参加を呼び掛け、連帯意識を高めるように努めています。従来の子どもの会の役割をする「賀寿っ子クラブ」や、老人会である「ゴールデンクラブ」もあり、幅広い年齢の住民にコミュニティへの参加の窓口が開かれています。「住民皆で盛り上げなければ、真の活性化は望めない」、という信念が賀寿団地自治会にはあり、まずは、活動に参加し楽しさを実感してみ、徐々に住民の意識が変わっていくのだそうです。

■全員参加の自治会！

ITの利用も早くから取り組んできました。自治会長の田島さんは、将来、インターネットが生活手段として欠かせなくなったときに、一人暮らしの高齢者が情報が入ってきづらく取り残されないように、数年以上も前に自治会でパソコン操作の講習をはじめました。最初は中古のパソコンを集めて始めたがすぐ使えなくなり、困っていたところ、近所の中学校のPC教室を借りることができるようになりました。これを機に「IT活用委員会」を発足、パソコンの技術講習だけでなく、賀寿団地自治会のホームページを立ち上げてお互いの意見交換ができるようにサポートをしています。ホームページで行政・生活関連のサービスを紹介したり、暮らしや健康チェックに役立つプログラムも作成できるようにするなど、ITを活用したまちづくりをしていこうという意気込みが伝わります。このように、「ITを習得出来る」「仲間を見つめることが出来る」といったサービスを住民にくまなく提供しています。また、情報基盤の格差を解消するために、インターネット閲覧や地域間交流を行える「賀寿団地情報センター」を集会所内に実現させ、ここでのパソコン講習では、実際に体験してもらうことに重点を置いて文書作成からEメール、ホームページ作成まで幅広く教えています。現在は、基本的なパソコン講座を終了したメンバーがほとんどになり、ニーズは減ったようですが、希望者には隔週火曜日にITふれあい広場を開き指導しています。他にも、希望があればボランティアとして出向き、インターネットの接続作業なども行っています。

また、現在、進めているのがWeb版回覧です。これにより、住民は、自治会の活動の詳細を賀寿自治会設立以来毎月発行している「自治会だより」からだけでなく、緊急で重要な情報を迅速にホームページから確認することができるようになります。様々な話題やニュースについて地元住民によって制作され、質の高い広報をしようとする先駆性が感じられます。

賀寿団地自治会の老人会である「ゴールデンクラブ」と、子ども会「賀寿っ子クラブ」は、公園を1ヶ月に1回の頻度で清掃を行っています。夏休みには老人会の指導によるラジオ体操も行われます。子どもは全体で50人にも満たない賀寿団地ですが、世代を超えた自治会員が一同に集まったの日常的な活動から顔を合わせる機会になり、安全な地域、防犯にもつながっているようです。さらに住民を対象に、近所の高齢者向け福祉施設から専門家を招いて、転倒・認知症予防といった勉強会も行ってあり、地域に根ざした健康づくりにも力を入れています。この講座は、賀寿団地における福祉の推進をはかることを目的に、賀寿団地自治会が呼びかけて企画されました。また自治会員による健康教室は、足腰を鍛えるバランス機能を訓練として、とても人気があり4つの教室が毎週行われているそうです。定期的な教室で、ひとり一人の体調なども把握できます。田島さんは「自治会員の交流や情報発信の場として集会所に足を延ばす理由になっています。」とおっしゃいます。

設立して約40年目となる自治会ですが、地域のニーズを受け、集会所の管理運営、様々なイベントの開催、情

報発信、などを手がけており、実情に応じて多種多様な活動を展開しています。自治会は住民全員の運営による活動を媒体に情報提供や興味をつなぐ仕掛けで、お年寄りだけでなく、地域の寄り合いの場として十分に機能しているようです。高齢者に優しく、かつ活躍の場を設けることこそ、魅力あるまちづくりではないかと感じます。今後も会員の参加がますます活発になっていくことでしょう。

■建築協定の活動もしています！！

賀寿団地は1960年頃に開発された戸建の住宅地でしたが、その後、地域内にアパートが建設されるようになり、急遽、環境維持を目的に、賀寿団地の建築協定を締結し1992年に横浜市長から認可され、建築協定委員会が設立されました。建築協定とは、住みよいまちを保持する一つの方法として土地の所有者及び借地権者全員の合意によって、建築基準法等で定められた基準に一定の制限（高さ制限や建築物の用途等）をお互いに守るように「約束」し、建築協定書を横浜市長が認可するものです。賀寿団地では2002年に更新を行い、現在まで団地の環境保全に活躍しています。

賀寿団地の建築協定運営委員会では、本来の活動である工事の事前通知の受理・確認以外にも住みよい住環境をつくるため、協定地域（及び周辺の新築工事・空地利用状況等の現場確認）、賀寿団地内の住環境の整備上問題となる建物（大規模マンションや老人施設等）の建設についての諸要望事項の交渉などを行っているとのことでした。このような活動を行っている賀寿団地の建築協定運営委員会の存在によって、諸要望条件などが満たされないで建築物を建てられなくなるので、建築協定区域内の無計画な建築を防止することが可能となり、良好な地域環境の維持がされています。

近年は、子ども世代の転出等による高齢者世帯の増加や敷地分譲による二世帯住宅・相続などの問題もあるそうですが、安定した住環境が保持されていることにより空き地も少なくなってきました。しかし、高齢化に伴い、委員会の運営が大変になり、建築協定への関心も低くなりつつあります。この打開策として、自治会を基盤とした実効ある安定的な活動を推進できるように、2007年度より賀寿団地の建築協定運営委員会は自治会の専門委員会として再スタートしました。今までに賀寿団地での大きなトラブルがなかったことは、自治会として協定をよく理解し、時代の流れに合った対応が功を奏しているといえそうです。

日頃から、できる範囲でどのような方法で取り組むか、住民と行政、地権者とバランスよくみんなで考えることが、これからのまちづくりに必要であり、さらに広まることを期待します。

<http://www14.plala.or.jp/gasdanchi/>

●畑から広がるコミュニケーション

横 浜市青葉区の北西、こどもの国駅から徒歩で10分、みどりに囲まれた住宅街に社会福祉法人「グリーン」があります。ここは、養護学校を卒業した自閉症・ダウン症などの障がいのある若者が通い働く施設です。青葉区では1970年代初め、障がい児と保護者が集り、「訓練会さくらんぼ会」が設立され、そこから、ひとり一人の持ち味とペースを大事にした働ける場として1993年に「グリーン」をスタートしました。現在、グリーンのメンバーは、利用者33人（女性6人、男性27人）、職員10人、それと5名の毎週参加のボランティアと多くの不定期参加のボランティアで活動しています。「グリーン」では、5人が共同生活できる2つのグループホームを設置していて、毎朝、ここから10人が通ってきます。2008年の10月には3つ目のグループホームを設立予定で、新たに5人の入居が可能です。

グ リーン」では、メンバーの特性に合わせて、畑班2つ、調理班、おにぎり班に分かれて活動しています。

畑 班は地元の農家から借りた畑や田んぼで野菜と米を作っています。取材した時期は丁度、端境期でしたが、道路に面した軒下で、じゃがいも、ネギ、唐辛子、大豆、味噌などが販売されていました。

グ リーン」の畑では、年間を通して、実に様々な野菜が植えられます。ピーマン、シシトウ、なす、ミニトマト、トウモロコシ、青しそ、ブロッコリー、すいか、白菜、大根、里芋、サツマイモ、かぼちゃ、ズッキーニ、クウシンサイ、モロッコいんげんなど。最近、新たに約8,000m²の畑を借りられることとなり、新しいトラクターを購入したり、土おこしをしたりと着々と準備が進行中です。冬場の野菜作りも可能なビニールハウスも建てる計画です。

グ リーン」では、食事も自分達で作ることを大事にしています。昼食づくりは、調理班の活動です。収穫した大豆で作ったお味噌汁をはじめとして、四季折々の食材を生かした食事が味わえます。

ま た、現在、特に力を入れているのが「おにぎり班」の活動です。収穫したお米と野菜をベースにお弁当やお惣菜を作って販売しています。この取り組みには地元の福祉専門学校をはじめとする多くの方々をサポートしていて、学生ボランティア、主婦など様々な立場の人がレシピや販売方法などのアイデアを持ち寄って参加しています。

●コミュニティ再生の種を蒔く「グリーン」

グ リーン」では、希望者はいつでも農作業に参加することができます。畑での苗植え、草むしり、田んぼでの田植え、稲刈りなど、若い方から退職後の方まで和気あいあいと野良仕事をしています。

グ リーン」では、常にボランティアを募集していて、地域の人々と交流が生まれる場として、様々な活動の門戸を開いています。ホームページの活動紹介の写真は、写真好きなボランティアの方が



地域と交流の輪



撮ったものです。堆肥は玉川大学の農学部や近所のお豆腐屋さんの協力も得て作っています。さらに農業体験に留まらず、食事会のイベント開催、味噌作りなど、お互いの知恵と技術を教えつつ、教えられつつ活動しています。農作物を育てる楽しさと、収穫物をみんなで食べる交流の楽しさを地域の方々と共に共有しています。

地 域ケアプラザや地元のお祭り・バザーでの野菜や加工品の販売など地域の活動にも参加しています。「グリーン」としてのこうした活動は地元とのネットワークだけでなく、障害者福祉への理解や関心につながります。所長の石田さんは「いずれも、地元に着した販売や消費を心掛けたと言うよりも、売って見たらよく売れた、そこからいろいろ生まれたという結果論に過ぎません。」と、おっしゃっていましたが、これもひとつの収穫と言えるのかもしれない。

石 田さんは、土に触れ、種を蒔き、草をとり、収穫をするといった一連の農作物が育つ過程に多くの方々と巻き込むことで、メンバーも育ち、グリーンも育ち、「土を耕し、人を耕し、人と人の間を耕す」という話をしてくださいました。一般に障害者施設の仕事は軽作業が多い中、農業を主体としている「グリーン」はユニークな存在です。発達にハンディを持つメンバー達は、田畑を歩き地面の凸凹をカラダで感じ、注意深く作業をすることが出来るようになります。仲間と一緒に空の下で農作業をすることで、自然に育まれ、人に育まれ、一人ひとりの個性も引き出されます。張り合いのある毎日や社会への参加という、野菜やお米だけに限らない「内なる収穫」を得ています。

そ して、身近に土や人と関わることは、労働の対価や人と人とのつながりを教えてくれるだけでなく、農地の保全や新たな活用へも通じ「農を切り口に地域を盛り上げよう」という想いはどんどん膨らみます。しかし、こうした想いとは裏腹に市内の農地は減少しています。農業従事者の高齢化や世代交代により、農地がアパートや駐車場などに変わることが多い中、食の安全・安心の確保と共に、ゆとりややすらぎ

を求める都市住民との交流型農業体験を盛り込んだ「グリーン」の試みは、福祉施設の活動にとどまらず地域のコミュニティの新しい方向性を示しているように考えます。様々な人たちが参加し人や地域を「耕して育つ」グリーンの活動は、農による地域の再生と障がいのある若者の未来をひらく地域づくりにまっすぐに繋がっているように感じました。



よこはまのまちづくり活動情報 (募集案内)

「協働コーディネーター」開催のお知らせ

「参加協働型市民社会」を実現するための「協働」のあり方を明らかにするとともに、新しい公共を拓き、協働推進の要となる「協働コーディネーター」を養成する講座です。「協働コーディネーター」は真の市民社会構築に不可欠の新しい「職能」、社会的に大きな可能性のある仕事です。

●日時：A 初級・中級編
2008年6月14日(土)13:00～17:00
6月15日(日)10:00～16:00 (1日のみの参加も可)

B 中級・上級編 2008年7月5日(土)13:00～17:00
7月6日(日)10:00～16:00 (1日のみの参加も可)

●内容：「協働コーディネーター」に必要な『協働のデザイン』の理論と実践方法とそれを支える「NPO公共哲学」を参加体験型の講座、ワークショップで学びます。

■プログラム：

- 【1日目】・講演「参加から協働へ」講師 世古一穂
・協働実践事例報告（講師は上級クラス修了者で各地で協働コーディネーターとして活躍している方々）
- 【2日目】・ワークショップの実践研修（情報整理学WS、合意形成WS、プログラムデザイン、プロセスデザインWS等）

●会場：すぎなみNPO支援センター 03-3314-7260(代表)
<http://www.nposuginami.jp/>

●対象者：協働コーディネーターを目指そうとする方、パートナーシップによる真の市民参加のリーダーシップを目指す方、行政、企業、NPOの方等、職業・所属を問わず広く参加いただけます。

●定員：30人
●講師：世古一穂 特定非営利活動法人 NPO研修・情報センター代表理事・金沢大学大学院人間社会環境研究科教授

●テキスト：ブックレット7(1,000円)、『協働コーディネーター』(著者割引 2,100円)、『コミュニティレストラン』(1,700円)

●参加費：6月14日、15日 20,000円
7月5日、6日 20,000円 (1日のみ参加は 10,000円)

●交流会：A、Bともに1日目終了後18時から交流会を予定(参加の可否は自由、会費7,000円)

◆問合せ・お申込

特定非営利活動法人 NPO研修・情報センター
Tel:03-5363-9016 Fax:03-5363-9026
〒160-0014 東京都新宿区内藤町1-6 御苑ハイツ305
E-mail:ticn@mui.biglobe.ne.jp

NPO公共哲学研究会 【講座のご案内】

NPO公共哲学研究会は2007年8月に発足し、毎月講師を招く形で勉強会を開催してきました。現実社会を変革する哲学として、「NPO公共哲学」を形成し、市民社会を切り拓いていけるよう、2008年は、「深める」と「広げる」という活動方針に沿って活動していきます。公共哲学について、皆さんと共に考えていきたいと思います。ぜひ「NPO公共哲学研究会」の活動にご参加ください！

●「深める」場：これまでの研究会での議論をさらに発展させる形で、NPO公共哲学の基本概念についてテーマを定め、じっくりと議論する場を定期的に開催 するものです。

①2008年8月23日(土) 13:00～17:00

テーマ：「公・私・公共 三元論」

②2008年11月29日(土) 13:00～17:00

テーマ：「領域主権論と市民活動」

●会場：1、2とも、すぎなみNPO支援センター（東京都杉並区）
参加費：1、2とも、2,000円（資料代、飲み物代含む）

●「広げる」場：公共哲学の基本的な考え方を多くの人々に広げるため、関連団体との共催・協力により、参加者と学習議論を行うものです。

①2008年6月15日(日)13:00～16:00

ゲスト講師：東京基督教大学教授 稲垣久和

テーマ：「NPO公共哲学入門」

コーディネーター：NPO研修・情報センター 代表理事 世古一穂

共催：(特非)NPO研修・情報センター

「協働コーディネーター養成講座」(6/14～15)

※詳しくは「協働コーディネーター養成講座」チラシをご覧ください。

②2008年7月6日(日)13:00～16:00

ゲスト講師：拓殖大学国際学部教授 長坂寿久

テーマ：「NGO発市民社会力」

コーディネーター：NPO研修・情報センター 代表理事 世古一穂

共催：(特非)NPO研修・情報センター

「協働コーディネーター養成講座」(7/5～6)

詳しくは「協働コーディネーター養成講座」チラシをご覧ください。

●会場：1、2とも、すぎなみNPO支援センター（東京都杉並区）

参加費：1、2とも、5,000円（会場費・資料代等含む）

◆問合せ・お申込

特定非営利活動法人 NPO研修・情報センター

Tel:03-5363-9016 Fax:03-5363-9026

〒160-0014 東京都新宿区内藤町1-6 御苑ハイツ305

E-mail:ticn@mui.biglobe.ne.jp

2008夏 LRTフォーラム【フォーラムのご案内】

今、まちづくりを考える中で、公共交通の重要性が高まっています。二酸化炭素の削減、高齢化社会への対応、過度に進んだクルマ社会への反省もあり、電車やバスなどの公共交通をどう充実させるかが、都市のまちづくりの課題です。中でもLRT（次世代型路面電車）は、フランスやドイツの諸都市を始め、クルマへの依存度が高いと言われていたアメリカの都市でさえ、相次いで導入されています。中心市街地の活性化などのため、まちづくりの中心にLRTを！

フォーラムでは、アメリカの都市の事例や横浜での新しい試みなど、LRTを中心とした夢のあるまちづくりについて議論します。

●内容：6月14日(土) 13:30～16:30(開場13:00)

●テーマ：「LRTを中心とした横浜のまちづくり」

●会場：横浜市開港記念会館 1号室

●基調講演予定者：古池弘隆氏（宇都宮共和大学教授・宇都宮大学名誉教授）

松井雅彦氏（都市再生推進協議会ワーキングリーダー・オリエンタルコンサルタント）

パネリスト：嶋田昌子氏（横浜シティガイド協会）

コーディネーター：大内えりか（横浜にLRTを走らせる会）

●参加費：資料代999円

◆問合せ

特定非営利活動法人 横浜にLRTを走らせる会

<http://lrt.cocolog-nifty.com/yokohama/>

〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町2-8-1若林ビル302

Tel:045-662-3689 Fax:045-316-2368

E-mail: yokohama-lrt@nifty.com

●まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取り組みなどの情報を下記までお知らせください。このページ及びメールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

情報提供のあて先：

横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課

TEL:045-671-2696 FAX:045-663-8641

e-mail:tb-chiikimachika@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」は地域まちづくりに関心のある方への転送、メールマガジンへのお誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申し込み・停止は、下記のアドレスからお願いいたします。

<http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi>

★「ヨコハマ人・まち」バックナンバーはこちら

http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/hitomati/back_num/index.html